



環の町芳賀 第108回

汚れが落ちないプラスチックは何ごみ？

廃プラスチック類の分別がすっかり生活の一部になった家庭も多いかと思えます。回収に出される廃プラの「品質」も、開始当初と比べると大変よくなってきています。

今年度から、廃プラの再生処理を芳賀台の㈱プライクルで行うようになりました。町内の廃プラが、より身近な町内の工場でリサイクルされるようになったわけです。

リサイクル工場での処理の状況は、定期的に確認に行っていますが、先月確認したときには、回収物の中に次のような「不適性なもの」が入っていました。

- 食べ残しが入ったままの食品容器→このままでは可燃ごみです。
 - 少量の金属が使われている洗濯バサミ→可燃ごみです。
 - 乾電池!→もちろん不燃ごみです。
 - 中身が少し残っている洗剤容器→このままでは可燃ごみです。
- 食べ残しや使い残しが付着したままのプラ類は、可燃ごみとして処分してください。きれいに洗うことが出来ればプラ類でOKですが、負担に感じない範囲で分別していただけたらと思います。

環境対策課環境対策係 【☎028(677)6041】

(芳賀町総合情報館) 知恵の環館だより

5月の休館日
6・10・17・24・28・31日です。

スタッフから

昨年度の総合情報館の利用状況をお知らせします。
①入館者は91,928人(H21は77,083人)②図書資料の貸出冊数は146,241冊(視聴覚資料含む)(H21は96,084冊)③町内のみ貸出冊数は84,332冊で、町民1人あたり5.05冊④情報館利用者カードの新規登録者数は約1,000人(H21は約3,800人)⑤蔵書冊数(視聴覚資料含む)は68,835冊でH21末から5,493冊増えました。
これからも、どんどんご利用ください。(増淵)
総合情報館(知恵の環館)
【☎028(677)2525】

NEW着刊資料

☐一般書
鼠、闇に跳ぶ 赤川次郎
オー!ファアザー 伊坂幸太郎
京都駅0番ホームの危険な乗客たち 西村京太郎
ブギウギ 坂東眞砂子
プライド 真山 仁

☐児童書
くいしんぼう 今江祥智
新13歳のハローワーク 村上 龍
13歳の進路 エラのはじめのおつかい カルメラ・ダミコ
エラのふしぎなぼうし カルメラ・ダミコ
ほか多数入荷!ご利用ください。

今月の1冊

一般書
天国旅行 三浦しをん(新潮社)
富士の樹海に現れた男の導き、死んだ彼女と暮らす若者の迷い、命懸けで結ばれた相手への遺言、一家心中で生き残った男の記憶...
「心中」をテーマにした短編集。

児童書
リーコとオスカーとつづれそうな心臓たち アンドレアス・シュタイン
誘拐犯から無事に親友のオスカーを救い出し、すっかり有名になったリーコ。喜んでいいはずなのに、最近どうもママの様子がおかしい...。リーコとオスカー、第二弾!

工業団地から、こんにちは

芳賀工業団地連絡協議会に登録している企業を紹介します。



技術研究所長代行
堀尚樹さん

株式会社丸順は、昭和27年に丸順精工工業として創業、平成9年から現在の社名になりました。自動車用ボディー部品を総合的に供給し、本田技研工業(株)・本田技術研究所を主な取引先とし、部品の研究開発・設計から金型や治具・検具の製造販売までを行っています。

国内外に工場や研究所を展開し、県内には昭和62年に栃木営業所(現技術研究所)が宇都宮市に進出し、平成13年に宇都宮市から芳賀工業団地に移転しました。

技術研究所では、主に設計や各種シミュレーションなどの開発業務を行っています。また、製品のうち、バンパービーム(衝突時のボディーダメージを低減するためバンパー内に設置)はホンダ車の8〜9割に使用され、技術研究所で試作品を用い、実際に衝突試験を行っています。敷地内に50メートルラインの衝

会社名 株式会社丸順 技術研究所
住所 芳賀町芳賀台198-1-5
電話番号 028(677)3843
従業員数 20人
本社住所 岐阜県大垣市新田町
ホームページアドレス 211234
http://www.manjun.co.jp/

突試験装置を備え、数回の実験を経て製品が完成されます。この装置を先駆的に導入したことで、バンパービーム部門では他社をリードしているそうです。

お話を伺った堀所長代行は「地球環境に優しい自動車部品を開発し、自動車メーカーに提案してまいります。また、従業員全員が安全運転に心がけ、住み良い町づくりに貢献していきます」と話してくださいました。



集まれ!趣味仲間

町内の生涯学習サークルの活動を紹介します。



将棋愛好会

生涯学習センター【☎028(677)0306】
小林英夫【☎028(677)0847】
○活動日 毎週土曜日
10:00~16:00
○活動場所 生涯学習センター

以前は、将棋好きの者が時々集まって勝負を楽しんでいました。特定した場所もなく、相手を探すのにも苦労していました。

そんな時、生涯学習センターから将棋の会発足についての話がありました。

集まる場所を確保し、定期的に将棋が指せたら楽しいことだと思い、愛好者に呼びかけたところ、11人の参加がありました。

2月からは、毎週土曜日を定例日と定めて活動しています。入会金は1,000円で、会員の半数は高齢者です。ボケ防止には最適です。

将棋好きの皆さんの参加を歓迎します。ぜひ、一緒に思う存分将棋をしてみませんか。

(文・小林英夫)